

長崎医療センター

座談会 Vol. 15

千燈照院

特別企画：“国病久原会の未来を拓く”

“温故知新”、組織の伝統と歴史を振り返る姿勢も千燈照院には必要とされます。今回は長崎医療センターのOB会組織である「国病久原会」について紹介します。

対談

国病久原会会長 廣田 典祥
長崎医療センター院長 江崎 宏典

千燈照院とは…
長崎医療センター千人の職員が力を合せて高度医療の実現にまい進する姿勢を表す言葉。

江崎：今日は長崎医療センターのOB会組織である、「国病久原会」の廣田典祥会長（前当院副院長、国立嬉野病院名誉院長）にお越しいただきました。「国病久原会」はとてもユニークなOB会組織ですが、当院の大部分の職員・OBにもその活動があまり知られていないのではないかと思います。今回の対談で、「国病久原会」の未来について大いに語り合いたいと思います。



長崎医療センター院長
江崎 宏典
(えぎき ひろのり)
平成24年より現職

廣田：「国病久原会」を紹介する機会をいただき、誠にありがとうございます。前院長の米倉先生に請われて会長を引き受けましたが、どのように会を牽引していけばよいのか、どうしたら未来への展望を拓くことができるのか模索中です。しかし当院へ何らかの形で貢献ができるのではないかと予感もあります。

江崎：私も「国病久原会」の役員をさせてもらっていますが、会長さんからこれまでの歩みを紹介してください。

廣田：国病久原会は昭和61年（1986年）に発足し、今年で30年になります。本会は、会員相互の旧

交をあたためること、OBと本院職員との親睦を図ることを目的としております。現在の会員数は約450名で、毎年約30名の新規加入があります。

江崎：30年とは長い歴史ですね。実際どのような活動をされているのですか。

廣田：大きな行事としては2年に1回総会を開催し、その後懇親会を行っております。本年は10月15日に第17回目の総会を開催したばかりです。今回の記念講演には前脳神経外科部長の馬場啓至先生に『卒後40年、てんかんと共に』の講演をしていただきました。また、会の活性化のために、「国病久原会OB連絡会」を常設して、本会の趣旨をPRする活動もしています。

江崎：てんかんのエキスパートである馬場先生のお話は、先生の足跡も聞けて大変興味深かったですし、懇親会も皆さん楽しまれてましたね。確認ですが、「国病久原会」は当院を退職もしくは転職された方が対象ですよね。

廣田：そうです。途中で他の医療機関に転職された方はもちろんのこと、当院に勤務経験のある職員、非常勤職員（臨床研修医も含む）も含めて元職員で当会にご賛同いただけるならば、どなたでも加入することができます。

江崎：当院に勤務経験さえあれば「国病久原会」の

会員資格があるということですね。ぜひ現職員にも退職後の活動の場に「国病久原会」という場所があるということを認知してほしいと思います。

廣 田：私もぜひ職員の皆さまに「国病久原会」を認知していただき、現職員とOBが一体となって、本院の発展を語りあう場にしたいですね。

江 崎：どこの会社でもOB会はあって、現職の方々のサポートをされていると伺います。一義的には会員の親睦ということもあるのですが、病院のサポート活動もしていきたいということですね。

廣 田：「国病久原会」は本院の応援団です。大きな声こそ発しません、常に長崎医療センターの伝統と歴史を守っていく気概を持ち続けています。OBにとって長崎医療センターは一つの「心のふるさと」です。老後は孤立しがちな生活になりますので、社会参加のつもりで「国病久原会」に参加してほしいと思います。



国病久原会会長
廣田 典祥
(ひろた のりよし)

江 崎：我々も今一度長崎医療センターの伝統と歴史を振り返り、当院で働くことの意義を考えることも必要ですね。職員全員が“当院という歴史ある病院で働く”ということに誇りをもってほしいと思います。その伝統と歴史を知る一つの手段として廣田会長が立ち上げられた「国病久原会」のホームページはとてもよいツールですね。

廣 田：ありがとうございます。長崎医療センターホームページの【医療関係者の方に】の項目に「国病久原会」のホームページを設けさせていただきました。本会の趣旨や沿革だけでなく、【会員の声】や【この人に聞く】というコーナーもあります。当コーナーに登場するOBは皆退職後も自分の

趣味やキャリアをいかし、活発な社会参加をしています。「国病久原会」のOB達の足跡が現職の方々にヒントを与える、双方向の交流ができるスペースであれ、と。

江 崎：【この人に聞く】の当病院名誉院長の矢野先生とのインタビュー記事は当院の足跡を知ることができますし、【会員の声】では当院の市民公開講座に参加された感想等を掲載していただいているので主催者側としてうれしい報告です。

廣 田：読んでいただきありがとうございます。まだまだコンテンツが足りません。多ければ多いほど、先ほど申し上げたような「心のふるさと」づくりができるかと期待しています。

江 崎：わたくしどもも新しい投稿を楽しみにしております。

廣 田：「国病久原会」のホームページを、会員の皆さまと現職員の皆さまとの、ゆたかな交流の場にしたいですので、ぜひ会員の皆さま、【会員の声】にご寄稿ください。

江 崎：「国病久原会」の皆さまと現職の病院職員が手を携えて、素晴らしい病院にしていきたいと思えます。本日はどうもありがとうございます。

廣 田：こちらこそ、このような機会を与えて下さり、深く感謝いたします。お蔭で、「国病久原会」の未来を拓く扉が開いたような気になりました。

